

東和中・西城さんの作文 水道週間コンテストで大臣賞

第56回水道週間作品コンテスト(作文・中学生の部)で、本市から応募した西城穂風さん(東和中3年)の作品が最高賞の特選となり、厚生労働大臣賞を受賞しました。大臣賞を受賞した西城さんの作品をご紹介します。

喉が渴いた私を水道水が潤してくれず。朝、起きたときに飲んだ一杯の水で、私の細胞はほとんど目覚めていきません。そして、「今日も元気に頑張ろう!」という気持ちにさせてくれるのです。また、テニス部の活動を終えて、自転車で家に帰ったときに飲む水も、私を癒やすかのように心や体をすっきりさせ、ほっとさせてくれます。

私は今でも水道の蛇口をひねるだけで、すぐにおいしい水が飲めることを、心からありがたく、うれしく感じています。日本では、何か特別なことがなければ、いっどこでも、すぐに体内に取り入れる水を摂取することができます。これは、本当に普通で、当たり前前のことですが、今の私は特別貴重に思えて仕方がありません。

りません。安心して飲める水を好きなだけ飲むことができず、この状態を守り、維持し続ける人々がいてくださいます。水道の先にある水道事業所の皆さんの気持ちと仕事。私は、ライフラインが安全に保障されていることへの感謝を忘れてはいけないと思っています。

私は、東日本大震災で被害を受けた一人です。あの日から、もう二度と思い出がたくさん詰まった家、生まれ育った懐かしい自宅に戻ることはできません。わが家は濁流に押し流され、全壊してしまっただけです。

当時小学生だった私は、体育館で数日を過ごしました。ペットボトルの水を少しずつ飲みながら、いつもの当たり

前が全く通用しなくなり、困惑しながらいるんなら、我慢を強いられた。「これくらい我慢すればいいのでは?」という不安ばかりが募りました。しばらくは、石巻の親戚の家にお世話になりました。そこも被災地であったために、水はとても貴重でした。やっとの思いでもらってきた水を少しずついろんなことに使うために必要最小限の使用と使い方の工夫が求められました。食事用、風呂、洗濯、トイレなど水の役割は、計り知れないほど大きいものでした。目の前に海があっても、生活していくために使う水は、何らかの手を施し、人間の健康と安全に結びつく水となるために、さまざまな行程を経なければいけないのです。私は、飲料水について学びました。

通して生きていく上で大切なものを身にしみて貴く思うようになり、生活を支える水も実に貴重なものの一つです。だからこそ、家族みんなで節水を心掛け、無駄をなくすように努めています。「食器を洗うときは、少しずつ水を流して洗ってね」「洗剤は多過ぎないように、これくらいで十分かな。洗い流しもすぐだしね」などという会話を弾ませながら、親子で流し場に立つこともあります。

配給の水と各国から寄せられた支援物資の水。海外の水で炊飯した時は、いつもの白米とは少し異なり、黄色っぽいご飯になったこともあり、日本での透明な水はいかに純度が素晴らしい日本の風土や生活に合っていて、即していたかを目の当たりにしました。

私たちがすぐに水道から利用していた水の背景には、水道局の皆さんの弛まぬ努力や営みがあったことを知りました。かけがえのない水を飲めるのは、水道事業所の皆さんの支えがあるからこそだと感じました。

その後、私は親戚の家から登米市にある親の実家にお世話になりました。転校をして、新たな環境の中でスタートをしました。そこでは、あまり震災の影響はなく、水道水も豊富に使えました。生活用の水に対する心配はほとんどなくなり、時間がたつにつれて、私の生活は、安定したリズムを取り戻しました。落ち着いて、安心したことを覚えていきます。

震災後の度重なる転居を経て、現在は、私の家族だけで生活できるようになりました。私の家族は、辛い経験を



西城 穂風さん (東和中3年)

に悩み、あえぎながら懸命に生きていく人々がいます。地球上にはそのような過酷な環境もある中で、私たちは日本の水道システムの素晴らしさを受けて活用できます。これは、本当に幸せなことだと思います。だからこそ、水の大切さを伝えたい、たくさんの方が水の一滴一滴の価値を知って利用していくべきなのです。想定外のことはいつ起こるかかわりません。万が一のことに備えて、生命の危機を乗り越える際の糧となる水をみんなで共有して守り続けていくべきです。水を確保しながら、上手に利用して災害などにも備えるスクラムを、日本中に広げていく必要があります。

今、私は自分ができることを継続しようと決めています。私なりに感謝の心で、小さな努力を積み上げていきます。

第56回水道週間作品コンテスト 厚生労働大臣賞受賞作品

「水」への感謝を忘れずに

阿部正一さん(迫町) 菅原球夫さん(東和町) 厚生労働大臣表彰

本市迫町の阿部正一さん(古宿)と東和町の菅原球夫さん(米谷3区)が厚生労働大臣表彰をそれぞれ受けました。迫町北方地区で飲食店を営む阿部さんは、公益社団法人県食品衛生協会会長や登米保健所管内食品衛生協会会長などを歴任。長年にわたり食品衛生の向上に尽力し、食品衛生功労者として大臣表彰を受けました。

食品衛生功労者の表彰式は、10月24日に東京・中央区の明治座で開かれました。阿部さんは「私たちの仕事はお客様に安全で安心な食品を提供すること。大臣賞受賞は食中毒予防を含めた会員皆さんの取り組みが評価されたものです」と喜びを語りました。

年金委員功労者の表彰式は、11月7日に仙台市内のホテルで開かれました。菅原さんは「大臣賞表彰は大変光栄。これからも年金事務に精励します」と喜びを語っていました。



食品衛生功労の阿部さん(右)と年金委員功労の菅原さん

